科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合　議事概要

○　日　時　　平成 22 年９月９日（木）10：00～11：10
○　場　所　　合同庁舎４号館 742 会議室

○　出席者　　相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、中鉢議員、泉統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

○　議事概要

議題１．「将来社会を支える科学技術の予測調査（総合レポート）」の概要について

＜文部科学省科学技術政策研究所　奥和田センター長説明＞

○本庶議員　　この４ページの左側にくくりがありますよね。これは３ページにもありますけれども、このくくりの言葉はどういう形で選ばれたのでしょうか。

○奥和田センター長　これは代表的にそこからたくさん挙がってくる言葉を、総じてこの辺はこういうことを言っているだろうということを我々のほうで抽出いたしました。ですから、特にこれにこだわりはございません。

○本庶議員　　結局、このくくり方は結構その次のステップで意味を持ってくるので、例えば文化・ライフスタイルというのに少し雑多なものが入っていて、農業と教育と気候変動と、こう一くくりにできるのかなと。言われてみればそういう点もあるけれども、そこのくくり方がやはり少し気になるところがあるので、もし未来を示すシナリオがここのくくりの中から出てくるようになれば非常にいいのですけれども。

○奥村議員　　３ページ目の絵の手法の意味は何なのですか。この距離は何なのですか。メッセージとして読み取る情報は何なのですか。低炭素というのが左上のほうにありますよね。食料・生産支援が右のほうにあるのですけれども、この距離に意味があるのですか。方向性も意味があるのですか。

○奥和田センター長　その集合体に意味があると思っております。集合体とあとその近さですね。これは各テキストが後ろにございまして、その中のキーワードが非常に近くなるような関係でマッピングしてあります。ですから、軸とか方向性自身、位置情報にはそれほどの意味はないのですけれども、距離ですとか相対的にすべてのものに関係性があるということです。

○奥村議員　　そこをもう少し伺いますと、例えば低炭素化とその右下に水資源というのがありますよね。ここにくくっているところには、例えば両方同じようなキーワードが出てくると。それが距離の近さを表すと、そういう表現ですか。

○奥和田センター長　はい。比較的近い表現が使われているということでございます。そこに、くくったところには、同じようなキーワードが頻度高く出現するということでございます。

○奥村議員　そうすると、低炭素、左側のグリーンイノベーションとライフイノベーションのある右側、距離が遠いですよね。それがメッセージになるわけですか。

○伊藤総務研究官　そうです。そういう意味ではそこは大きな２つの集合になりますので、それぞれ

に大きなプロジェクトというのでしょうか、方向性のあるものを柱として立てていく必要があると。むしろ、この真ん中のところ、この黄色のような部分はいわゆるライフのほうあるいはグリーンのほうに対してもほぼ等距離を持っておりますので、そういう意味では全方位的な、基盤的な技術分野をなすと、そういうことでございます。

○奥村議員　まあそうですよねというのが私の印象ですけれどもね。

○白石議員　まだよくわらかないところがあるのですが、つまり、キーワードのこれは頻度を数えているわけで、どのぐらい出てくるかを数えるわけですよね。

○奥和田センター長　それで近さを。

○白石議員　近さというのはどうやってはかっているのか。同じテキストの中に例えば２つのキーワードがどのくらい出てきているかという、それでもって近さをはかるわけですか。

○奥和田センター長　具体的には、８ページの上にあるようなフローを行っております。今回、シナリオとデルファイ調査のトピック、これは832ありますけれども、そこから出現キーワードを抽出いたしまして、これも自動的に抽出いたしまして、似たようなトピックを分析で抽出いたしまして、それぞれに類似度の分析をいたしまして、全体の数を出すと、このような形になります。位置関係は相対的なものでございますので、重ね合わせ表示をしているということでございます。細かいところよりも、やはり予測調査全体を通してこういうところに配置するものすべてがこういうところに組み込まれるというようなメッセージを酌み取っていただければいいかと思います。

○中鉢議員　さきほど、グリーンとライフは離れているとおっしゃいましたが、立体的に見ると、グリーンとライフの距離はかなり近いのではないでしょうか。２次元的に表現すると、遠くになるかもしれませんが、本当は低炭素とライフというのは、持続性とか、環境の中で共生していくというようなことを考えると、かなり近いものですよね。

○奥和田センター長　そうですね。

○中鉢議員　そうすると、そこから見てとれるのは、例えば低炭素という大きなグループがあって、それから資源とか食料生産という大きなグループがあって、技術としてのＩＣＴが両方にツールとしてあって、これを見て、グリーンとライフが離れていると見るのはどうかなと思いますけれども。

○奥和田センター長　相対的な位置でございますので、例えばこれを90度反転させて90度動かしてみれば、確かにこのような関係で重ね合わせられます。

○中鉢議員　こっちから見るとかなり近いという。

○奥和田センター長　はい、そのとおりでございます。全く関係ないキーワードが使われているというわけではないと思います。

○中鉢議員　これは、極めてゼネラルに感じするのですが、とんがった知見というのは何かあったのでしょうか。今までにないことがぽっと出てきたのか、それとも、何となく、そうでしょうという感じですか。

○奥和田センター長　予測調査全体からはもちろん皆さんの多くの意見の集合といいますか、平均的な意見が浮かび上がるということになっております。それぞれの分野の特異な話に関しましては、1,500ページものレポートの中に個々に書いております。それは各分野の方がそういう目で見ていただくのが一番いいかと思われます。

○中鉢議員　ただ、書きぶりが「何とかするべき」と書いてあるのは、「求められる」と書いてなくて、とてもいいなと思いました。

○奥和田センター長　そうですか。ありがとうございます。

○相澤議員　ただいまのようなデルファイ調査をもとに解析してみると、こういうような状況に整

理できたということで、これが現在、第４期の科学技術基本計画の中に織り込まれてくるところにどうこれを生かせるのかというところは、それぞれのお立場でお考えいただければという程度のことだと思います。

議題２．機動的対応の実施体制について

＜文部科学省、農林水産省説明＞

○奥村議員　23年度の一般会計の概算要求で、この口蹄疫に関してどの程度の予算を各府省が提出されたのかということを教えていただきたい。

○農林水産省　私ども、現在、人獣の共通感染症とかそれから家畜の重大疾病に対するリスク低減技術を開発するというプロジェクトを持っておりまして、そこを拡充しまして、口蹄疫に対して対策を打つために、例えば口蹄疫に対する抗ウイルス剤の開発強化あるいは口蹄疫自身をもっと早く鑑別できるような技術の開発といったところを拡充してございます。

○奥村議員　簡単にお答えください、金額ベースで。

○農林水産省　そこは約１億円弱の拡充になってございます。

○奥村議員　１億円程度。それから文科省さんは、口蹄疫に関して。

○文部科学省　文科省では、特に教育に関連しまして、口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境整備事業というものを要求しております。これは高等局、まさに教育の部分でありますけれども、この金額は４億4,000万円です。

○農林水産省　それから、農林水産の消費・安全局の中では、今回口蹄疫が生じたためにいろいろと課題が出てきましたので、これに対してさまざまな対応をするということで、14億円程度の総合対策事業を、リスク管理のための事業ということで要求をする予定でございます。

○相澤議員　それでは、ただいまご報告いただいたような体制で、ぜひ効果的に研究を推進していただきたいと思います。

議題３．平成 23 年度科学・技術関係概算要求について

＜須藤参事官説明＞

○白石議員　特別枠の日程は、これからどうなるのですか。これパブリックコメントをやりますよね。その辺の日程は、どうなるのですか。

○須藤参事官　新聞報道の情報ですけれども、一応まず10月に入ってから特別枠につきましてパブリックコメントをされて、それも踏まえつつ、評価会議というものをつくって、その評価会議で作業をしていくという、大きな枠が決まったという形でございます。ただ、具体的な日付のスケジュール的なものまではまだ決まっていないという、そういう状況ではないかと思います。

○白石議員　これが全滅したら大変なことになるのですよね。

○須藤参事官　はい。もしそういうことがあれば。

○白石議員　だけれども、投票で決めるとあり得ますよね。

○奥村議員　あり得ますよね。

○泉統括官　投票で決まるといいますか、多分、評価会議とか、さっき須藤参事官が言いましたパブリックコメントや評価会議ですべて配分が決まるということではなくて、こちらで実施する科学・技術の優先度判定も含めて、そういったものを総合的に勘案して年末の政府の中での予算編成がなされるということかと思います。例えば、去年は事業仕分けという形で行われた部分がありましたけれども、あれも事業仕分けの結果すべてがそのとおりになったわけではないので、むしろ例えば科学・技術については、スーパーコンピューターは、総合科学技術会議の優先度のご議論等も踏まえて最終的にはああいう形になったというように理解されるわけでございます。これから具体的にどういう進め方をするかというのがまだよくわからないところもあるのですけれども、引き続きよくウオッチしていきます。総合科学技術会議は総合科学技術会議のお立場から今、個別施策についてヒアリングをやっていただいているわけですけれども、その結果を踏まえて、いわゆる優先度判定というものを出していくということではないかというように思います。

○奥村議員　それもあるし、あと特別会計の問題がありますでしょう。ですから、相当厳しい環境にあるという認識をしています。

○白石議員　もちろん、統括官の今言われたことが、ある意味公式なわけですけれども、実際に中を見ますと、思いやり予算だとかとてもではないけれども切れそうもないものがいっぱい入っていて、政治的にやはり易しいところというとこで、特別枠の科学・技術関係施策がはねられるということを僕は恐れています。

○奥村議員　現実的にはね。

○泉統括官　おっしゃるとおりだと思います。そういう意味では、例えば文科省予算でも義務教育国庫負担金とか国立大学の運営費交付金の一部もそうなのですけれども、特別枠に出ている、そういうような形にしないと組めない枠組みになっているものですから。そういうことなのですけれども、おっしゃられたように、いわば政治的にかなり強いと言うと変ですけれども、強い球を特別枠で要求せざるを得ない各省の立場からいえば、そういう形になっているというのが現実かと思います。

○中鉢議員　どういう基準で要求枠と要望枠に振り分けているのか、それが不ぞろいな中で行われている感じがします。あるところは元気な日本復活の特別枠を使わないところもありますね。大体感じとして、どういう戦略というか、どういうお考えでこっちは要望、こっちは特別というようになっているのか。ある省では、特別枠は全部認めてくださいというアピール、いいものがありますからと。では、残ったのはあまりいいものではないのかなと。あるいは、残って要求したものはあんまり元気な日本復活には関係のないものなのかというつもりでやっているのかなと。意地悪く考えますと、要求枠は、何だ、元気な日本に直接関係ないのかと。要求枠と要望枠の分け方の基準がよくわからないのですが。

○泉統括官　こういうことだと思いますね。まず、要求基礎額というのが、この数字でいいますと３兆6,000億円から4,000億円引いた数字ですね。

○中鉢議員　ただ、これは１割減らせというものですか。

○泉統括官　１割減らせという中で、まずどうしても確保しなければいけないもの、あるいは元気特別枠で出て、いわば、この間川端大臣もおっしゃっていましたけれども、各省としてこれはここの中で趣旨に合うから勝負できるというものについては、そこへ出して要求されているというのが各省の基本的なお考えだと思います。

ところが、一方、そこにどうしても出さないといけない、人件費まで切れていって、義務的な経費まで含めて１割カットしろと、１割カットの中に含めろというのが今年の概算要求の枠組みでございますので、そうするとどうしてもそこで要るものを特別枠に入れなければいけないものもあるのですね。例えば思いやり予算とか、文科省でいうと義務教育の国庫負担金の一部でございますとか、あるいは国立大学の運営費交付金もかなり基本的な部分は人件費に充当されているものが多いわけなので、そういうものも特別枠に出ざるを得ないという要求の枠組みになっているということかと思います。

○中鉢議員　まだ少しよくわらかないところがありまして、企業的に考えると選択と集中をして、科学・技術予算をもっと有効に使おうと。ここは選択領域ですよ、集中領域ですよ、だけれども、本当にこれ選択していいのかという、そういう議論を別で考えますが、そこのタイトル、そういうものの選択をしてやり過ぎがないようによく見ようといったところに元気な日本と名前をつけられると、わからなくなってしまいます。どちらがプライオリティーは高いのでしょうか。

○泉統括官　基礎額の中で要求しているものは、各省がどうしても確保しなければいけないものなので。

○中鉢議員　では、そちらがプライオリティーは高いのですか。

○白石議員　それは必ずしもそうではないでしょう。

○泉統括官　プライオリティーは高いけれども、元気な日本の趣旨に合うので、コンテストで勝てそうな枠は、プライオリティーが高くてもそこへ出ているものも各省の判断としてはあると思います。

○白石議員　それと、もう一つは、切れるものなら切ってみろというものをやはり入れるわけですよ。

○泉統括官　そうです。

○奥村議員　そうでしょうね。

○白石議員　ええ。

○中鉢議員　早い話、極端な話、全部切ったらいいじゃないですかね、金がないのだったら。

○白石議員　それは切れないですよ。

○中鉢議員　どうして切れないのでしょうか。

○白石議員　思いやり予算なんか切れっこないではないですか。

○奥村議員　政治的に切れない。

○中鉢議員　何かおかしいですね。これはどういう視点でこういうのがあるのか、僕にはわからないです。

○白石議員　それがおかしいのはデザインが悪いからですよ。だけれども、それは上から決まっておりてきているのだから、これはしようがないということでしょう。

○泉統括官　そういう意味では、農林水産省は科学・技術予算でここへ出ている、この間の全体ヒアリングにございましたけれども、科学・技術予算の中でこの元気な特別枠に出ているものはなかったというようにしていますが、それは農林水産省全体の予算の中で、農家の戸別補償とかそういうものとか、そういう役所としての全体のプライオリティーの中でどうしてもそこへ持っていかなければいけないものがあって、そういうそれぞれの役所の予算編成、概算要求編成の事情の中でそういった形になっているというように理解されると。農水省もそういうご説明だったと思いますけれども。

○奥村議員　少し看板と実態が違うのですよ。いわゆる「元気な日本復活枠」という、世間が期待するこの看板から想定する話と、実態に織り込んでいる個別施策は、乖離しているもの

があるということですよ。

○中鉢議員　これ、結果として足し合わせたものを、こういうものが元気な日本特別枠ですよと。そうすると、このテーマでもって元気になりますよというように国民に広報をするときに、そのことをきちんと説明できるのかどうか。

○奥村議員　コンテストでしょうね。

○中鉢議員　コンテストをやった結果を評価としてね。

○白石議員　票が多いということになったら、それは科学・技術のところには票は来ないと思います。私はそれを一番心配しているのです。

○奥村議員　そのとおり。

○中鉢議員　これをやったから元気になるよという視点じゃなくて、特別枠のほうもここで我々に課せられているのは、科学・技術的にプライオリティーをつけてくださいという理解でいいのかどうか。以前、同じご質問をしたら、これは忘れてくださいという話もありましたけれども。やはりよくわからないところがあります。

要するに、この要求枠というのはドラフト、こっちはドラフト外って、こういう感じでしょうか。

○泉統括官　そうでもないと思います。

○中鉢議員　そうでもないと。

○泉統括官　はい。

○相澤議員　この議論はもともとの設計が大変問題を抱えているようなことなので、今いろいろと議論が出てきたところは、この要求の仕方が内包している問題点かと思います。

○白石議員　何でそういう質問をしたかと申しますと、あるタイミングで、仮に本当にこれ元気な日本をつくるのだったら、科学・技術予算というのは重要ですと。それを政府として個々に特別に配慮するということは１つ非常に大きなメッセージになります。みたいなことを総合科学技術会議の有識者議員として何か出すとかですね。去年、事業仕分けのところに１回やりましたけれども、そういうことは考えておく必要があるのではないのかという趣旨です。額からいったら2,000億円なわけですよね。ですから、2,000億円で、今の政権は科学・技術を重視しているのだというメッセージが出るのだったら、私は安いと思うのですよね。

○中鉢議員　同じ趣旨ですが、こういうきちっとした意味づけを持って枠を広げて選びましたというメッセージならわかると思います。ところが、いろんなシーンのところで、いや別にそんなのは関係なく、どういう視点で選んだのかというと、ただ予算の数字の何かある意味では左のポケットから右のポケットに寄ったものの数字があって、足してみたら少し増えていたなとか減っていたなという、こういう感じの区分のところに、その切り口をきちんと見せられるのかと。片方は一生懸命10％減らしましたという努力を見せたい、片方は何か趣旨を見せたいという意図、これはわかるのですが、一生懸命汗を流しました、しかし、こういうところを見せますよと、こういうようにも言えると思うのですが。中身を見たら何か玉石混交、いろんなものがいろんな思いで出してきたものですから、その判断はどういうようにしてするのかなと。それで、大事なものをＳ、Ａ、Ｂ、Ｃをつけるのでしょうけれども、しかしそれは切られるかもしれないということですね。元気かどうかで決まりますので。

○泉統括官　全くご参考までですけれども。先ほどの概算要求のこの１ページ目の表で、科学技術振興費というのが22年度の数字でいいますと１兆3,321億円でございますけれども、これを９掛けにした額とそれからことしの同じところの１兆3,802億円から2,000億円を引い

た数字、これが一応科学技術振興費で基礎額の中に入っている数字なのですけれども、これが多分、この去年の数字の９掛けよりも少ないのではないかと思うのですけれども。ざっと計算しますと、ぎりぎりか少ないのではないかと思うのですけれどもね。そういう意味では、この2,081億円のところを相当確保しないと科学技術振興費は去年よりもかなり減るということになるという。その８割ぐらいは確保しないといけないのではないかと思うのですけれども。そういう構造になることはこの要求から見ると明らかです。もちろん、中身はきちっと見る必要はありますけれどもね。全体の中の構造はそういうことで、白石先生のおっしゃっていることは数字的にいうとそういう意味ではないかなというように今理解しましたけれども。

○相澤議員　ただいまの件については、今後状況を見ながらいろいろと議論しなければいけないかと思うのですが、そういう意味では、この2,000億円の中でアクション・プランの対象となったものは、この2,000億円のうちどのぐらいになりますかね、具体的な数字として。

○事務局　1,122億円です。

○泉統括官　全部か、新規かどうかはわからないから。

○事務局　そうですね。特別枠ではないのもありますから。

○須藤参事官　そこは確認させていただきます。

○泉統括官　すぐにはでないですけれども。

○相澤議員　ですから、その辺の数字をつかんでおかないと、先ほど白石先生が指摘されたようなこともね。我々としては特にアクション・プランのところを重点にしてきているわけなので、それが元気な日本特別枠というところに最もフィットするものなのですよね。だから、そこの部分というのは、そこに特別枠という形で各省が指定した場合には、それは何としてもという強いメッセージを出さなければいけないところではあろうかとは思います。その辺のところの整理をしておいてください。

○須藤参事官　わかりました。

議題４．個別ヒアリング日程について

＜須藤参事官説明＞

○本庶議員　今回、アクション・プランのエントリー課題とそのほかを全部ひっくるめて総合的なＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを決めるのか。アクション・プランだけかためてするのか、それから、また、アクション・プランで言っていたことと違うものが出てきたり、いろいろあるので、そこへもう一度省庁を呼んで問いただすあるいはこういう条件をつけるとか、そういうプロセスを考えないと、このままいきなりエイヤッとＳ、Ａ、Ｂ、Ｃをつけるというわけにはいかないような気がしているのですけれども。

○須藤参事官　それは先ほど統括官がおっしゃった話あるいは相澤先生がおっしゃった話とも関係あると思うのですけれども、いわゆるアクション・プランとそれ以外のものＳ、Ａ、Ｂ、Ｃづけというのも、またさっきの特別枠の2,000億円の中の確保という話とも関係していると思いますので、そこについては、先生まさにおっしゃるようにこのまますぐということではないのですが、次回までにどういうような形でするかということについてのご議論できるような形にさせていただきたいと思います。先生の昨日までのヒアリングを実施した印象として、再ヒアリングを実施するということも考えたほうがいいという状

況でございますか。

○本庶議員　再ヒアリングでいいのかどうか。具体的に言いますと、当初聞いていたのは、これは1.5億円の小規模なプロジェクトでパイロット的に行うという話が、急に28億円の特別枠を使った巨大プロジェクトで、しかも国からの治験のフェーズIIIだということが出てきまして、きのう、我々も少しびっくりしています。普通、フェーズIIIというのは政府・企業が共同でする、あるいは大部分、もうそれは実用化にいくかどうかですからね。それを国が丸抱えでするのかどうか。全然我々は聞かされてなかったので。奥村副主査、どうしたものかと。例えばそういうことが今後も出てくるかもしれない。

○相澤議員　まさしく今ご指摘の、私もきのう出ていて、「あっ、これは」というように思いました。少しそこはほかの一般論としてのアクション・プランということではなく、かなり特殊な形であったと思うので、これは何か改めてしなければいけないのではないかなと。

○本庶議員　担当官を呼んで、裏事情か何かあるのか。どうするのか、本当に聞かないと、これはかなり額が額ですからね。

○相澤議員　そうですね。

○本庶議員　28億円というと、理研のワンセンター丸抱えでしょう。

○相澤議員　そこまでではないのですが、グリーンイノベーションの関係で、この日程表の９月８日の最初の文科省関係のヒアリングが、これだけの施策を１時間でということもあり、これはまず外部専門家が非常に違和感を持って、どうやって議論したらいいのかということがわからなかったというように思いますね。それで、評価はこの個別施策についての評価シートを記入することになるので、しかもこれ全体のプレゼンテーションがこういうところでこう言うとあれなのですが、非常に要求していたところがきれいに説明されていなかったので、一応これは宿題としてその資料を追加で出すようにということにはしましたが、これは場合によっては改めて、ヒアリングではなく、そういうことの資料を添えて、当日評価された方にももう一度評価し直してもらうということで対応できるのではないかと思いますが、ちょっとやはりいろいろなそういう状況が出てきておりますので。このスケジュールで見ると、そういう案件が非常に多いのを短時間にパッケージしているところは、また同じ問題が出る可能性があるのですよね。

○奥村議員　やはり目標とそれに対するアプローチをきちっと説明すればいいはずなのですよ。にもかかわらず、そもそも論から長々と議論する、説明をする。これを変えない限り、何回やっても同じですよ。ですから、相変わらずそこに時間を費やしているのですね。これは目標がはっきりしていないことが大きな要因なのですよ。したがって、これが重要だ、重要だというような話をくどくどして、時間切れ。

○相澤議員　ですから、その種のところはそのままで評価せざるを得ないというところなのですが、ただ、先ほどの本庶議員が言われたあの件はもう少し大枠の問題なので、これはどう対処すべきなのかというのを至急ご相談いただいてですね。

○本庶議員　だから、この場で個別案件だけでも呼んできちんと精査することもあり得るということは一応コンセンサスにしておかないと、何かその辺が外部的に恣意的にやっているというような話になってもまずいと思うのですね。

○中鉢議員　本庶先生と同じような意見なのですけれども、２つありまして、１つは、この間、全体ヒアリングを私初めてやらせていただいて、特に興味を持って、バイオマスを例に質問したのですが、その共通テーマで、私が聞いている範囲では同じ質問に対して経済産業省は何が特徴なのだというと、食料とエネルギーとがバッティングしないような領域でやりますと。農林水産省では何だというと、農林水産業においてと、これは日本語が

少しよくわかりませんけれども、日本における植物起源というか、そういうものをしますと。したがって、それの循環をするのです、日本国内に限っていますと。というと、何となく経済産業省は国内に限らないなと読み取れるわけですけれども。それから、文部科学省はどうですかというと、文部科学省はまたおもしろい発言していました。大学発の研究をするのだと。文部科学省というのは大学発ではないかと僕は思うのだけれども、そういう表現を許すかどうかなのですね。国交省はどうですかというと、いや、汚泥ですと。下水道汚泥でアルコールではありません、ガスですと。

こういうマッピングが事務局のほうでこうなっていますよというのをやらないと、これはだれがしているのかわかりませんけれども、半日少し聞いた範囲だけですが、そういう違い、これを全部オーケーとするのかですね。どういうように予算的な措置でもって増減が出てくるのか、私にはよくわかりません。それから、衛星に関しても、ＧＯＳＡＴを打ち上げるのは私です、シミュレーションするのは違います、計算機はこっちですと。この相関をだれがコントロールしているのだろうかと。私は企業の経験しかありませんけれども、企業だったら、大体事務局側がこういうようになっていますと整理します。論点ポイントがはっきりしてくるところまでいかないと、この限りある時間の中で、それを承認したりするということは、むしろミスリードにつながる危険性があるのではないかという感じがします。

それで、２つ目は、これは全く本庶先生と同じなのです。実際に見ていて、私はアクション・プランの中で数字が変わってきたり内容が変わってきたり、要するに定量的にしているという数字自体が変わっているものもあります。こういう違ったものが出てきて、これをアクション・プラン以前に検討したと、アズイズですという名のもとにそのまま容認するわけにはいかないと思います。ほかのものとの検討の度合いによってですね。そうすると、中にはアクション・プランのパッケージで承認したもので、いかにも貧弱なものが出てきたりする、あるいは違ったものが出てきたりする、そのときに本当にＣをつけていいのだろうかと。こういう議論だと思うのですね。

○相澤議員　後半の部分についてはおっしゃったとおり進めるという形で。

○中鉢議員　どうしてそうなるのだと。

○相澤議員　その点については合意がもう既に形成されているわけでありまして、Ｃもあり得るということです。

○中鉢議員　本来ならもとに戻すべきではないかと。本来ならばね。

○相澤議員　ですから、出されたものについての今度は判断ですから、出されたものが初期のそういう合意に基づいた方針に沿っていなければ、それはＣというのはあり得るべしということで、これはアクション・プランを進めるところで合意が形成されています。

○中鉢議員　少なくとも、いつまでに何をどの程度どうするのですかといったときに、担当者が後で調べますということは許されてはいけないし、それでまたそのときに数字を変更するようなことがあっても私はいけないと思います。

○相澤議員　ですから、ご指摘の２番目の件については、今、中鉢議員が言われたとおりにアクション・プランに対しては対応しております。ただ、今、本庶議員が指摘された、やはりその枠を超えた形で現実に出てきているので。

○中鉢議員　いや、それも含めてだと思います。枠を超えたり数字が変わったりと。枠を超えるのは一例だと思いますので。

○相澤議員　ですから、ただ、その枠を、今、本庶議員が言われたところは、個々のところの方針がアクション・プランの枠組みということを考えていたけれども、それを超えたもので、

これはむしろ悪いケースではなく、ある意味では非常に大きな活性化が起こっているとも見える。ただし、それが当初と相当違うところに来ているので、これは改めて検討したほうがいいだろうと。ご趣旨だと思います。

まず、ここの点だけ確認したいのですが、そういうケースが出てきたので、これを再ヒアリングといいましょうか、そういうことをするということをここで一応合意をするということをお諮りしたいのですが、いかがでしょうか。そういうことは、することでよろしいでしょうか。

はい。それでは、どういうようにするかということを含めてご検討いただきたいと思います。

それから、中鉢議員が最初に指摘されたことは、全体ヒアリングのところの問題だと思います。具体的な例としてバイオマスを挙げられましたが、あの全体ヒアリングで出てきたときの各省のバイオマスに対する答えは、アクション・プランで取り上げているバイオマスのところにかかわることと、それを超えたバイオマス一般のお話とが、あの全体ヒアリングを答えた人たちはそれぞれいろんな立場で答えたと思います。それで、本来はあらゆる科学・技術の施策について総合科学技術会議が全体像をつかんでということだったのですが、これがまさしくなされていなかったわけです。それで、アクション・プランで初めてその施策関連を総括的に見て、こういうように整理し、こういうところに重点をかけるべきだということをしているわけなのです。ですから、今回のアクション・プランというので初めてそういう全体像を見つつ進められるという状況になっていました。ですから、ご指摘の点は、それがまさしく今までの一番弱いところといいましょうか、そういうようなことでありますので、これは今後も続けていかなければいけないというところであるかと思います。

それでは、ただいまの再ヒアリングありということで検討をしてください。

先ほど私がもう一つの例として、１つの省だからということで、余りにも数多くの施策が短時間にパックされているというのは、これは時間的にどうしようもないというところでしょうが、これを混乱がないように、今後、例えば具体的に、木曜日の午後から始まる、２ページ目にある、13時25分からの経産省ですね。こういう非常にたくさんの案件が出るところは、全体像をここのところでわかるようにし、かつそれぞれの施策の目標というものが明確になるようにと、こういうように並べることが１ついいことは、全体像がわかることですから、その全体像のつながりを十分に意識して説明をするように。これは今日の午後ですけれども。

○中鉢議員　例えば、今までシリコンの微細化技術や、シリコンカーバイトでいろんなシナリオが言われていますが、そろそろどこがどういうように行っているのだということを、まとめて議論したほうが本当はいいと思います。その整理をしていろんな対話をしたらいいと思います。個別こうやって本当に積み上がるのかというところに僕は疑問がありますので。そうでないと、その大きなプロジェクトに対して本当に公金をつぎ込むべきかどうかという議論がなされにくいと思います。企業のお金でやったほうがいいのではないかといったところがないか、少し気になっていますので。

○相澤議員　そういう意味で、明日以降のところでも文科省が明日午前にたくさんの案件を抱えていますね。これがまさしくそういうような全体像をきちっと提示しながらというところであろうかと思います。そういうようなところをヒアリングが効果的に進められるようにお願いいたします。

○奥村議員　文科省はグリーンのところでは目的基礎という役割に大きく位置づけられていますよ

ね。ですから、そこの役割がきちっとわかるようにお進めいただかないと、何か中途半端なマーケット論を展開されてみたり、非常に説明のポイントを苦労されているなと。そこをきちっと整理をされて進めることが重要だと思います。

○須藤参事官　今のご指摘については、再度徹底させていただきます。

○中鉢議員　　前回は全体ヒアリングでしたが、個別ヒアリングでは、研究テーマの表記も含めて、きっちりやり出すと、恐らくこの時間ではおさまらないような質問がいっぱいあると思います。それを制限時間内でやって、フラストレーションがたまったままＳ、Ａ、Ｂ、Ｃをつけなければならないということは、避けるべきだと思います。

５．民主党行政刷新ＰＴによる文部科学省行政事業レビューのフォローアップについて

（非公開）

（以　上）